―湧水と河川水の形成―

帷子川沿いの湧水

●水道橋付近

水道橋があります。水道橋の下をとおって水道管で鶴ヶ峰浄水場の余剰水が帷子川親水緑道に導水されています。更に余剰水は左岸から、帷子川に流れ込んでいます。ここより上流の帷子川の平水時（雨が降らない時）の水量は、帷子川の流域下水道が完備しているため支流や河床からの湧水と考えられます。上流に歩きながら帷子川の水量の変化に注意してください。

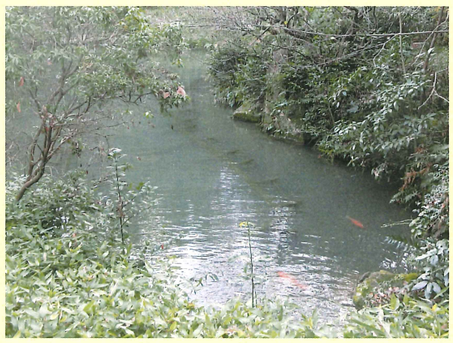
●帷子川（用賀下橋の魚道）

かつては、帷子川の流れを利用して染物の水洗いが盛んに行われました。これも帷子川の歴史の一つです。今でも、そのときの土台のコンクリートが、河床に見られる所もあります。帷子川は蛇行の激しい川でしたが、近年急速な都市化とともに水害が多発するようになったため、川幅を広げ、河床を数メートル掘り下げる大規模な河川改修が行われました。

河川改修後、川底に上総層群が露出しているところが多くなりましたがこの地層は浸食されやすく、川底がコンクリートで補強されているところが多く見られます。

一時期帷子川がゴミ捨て場のようになってしまったこともありましたが、「帷子川はふるさとの川の会」の皆さんが、綺麗な川を取り戻すための活動として、川の清掃活動を続け、西谷付近までは鮎が遡上するほどきれいになりました。「川の会」は西谷より上流で鮎が見られないのは河床に段差のあることを突き止め、関係方面に働きかけ平成22年には魚道の設置（用賀下橋の魚道など）も実現しました。今では帷子川は季節になるとかなり上流まで鮎の魚影さえ見られるようになり、環境と調和した温かみがある川となっています。

●帷子川親水緑道

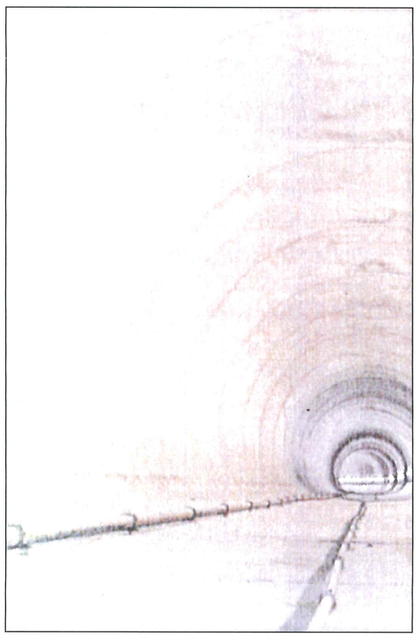
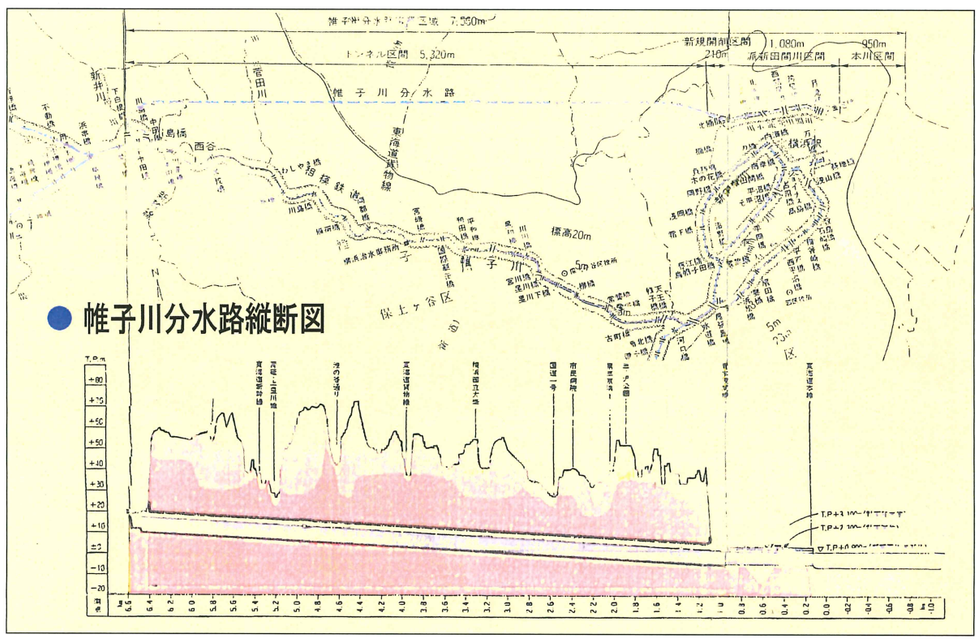


帷子川の旧河道を利用した親水公園です。とても落ち着いた気持ちの良い水辺空間を楽しめるところで、平成20年度の都市景観大賞（美しいまちなみ特別賞）を受賞しています。公園内の池と小川の水は、帷子川の対岸にある、鶴ヶ峰浄水場の余剰水を主な水源としています。この水は近代水道として日本で最も古い歴史を持つ丹沢山地から運ばれてきた横浜水道の水と、その後横浜の発展とともに丹沢山地に造られた沢山のダムで取水された水です。

遠く丹沢山地から運ばれてきたこの水は多くの先人の努力の結晶であり、横浜市民にとってはかけがえのない宝物なのです。雨量不足で水道の断水騒ぎが新聞やテレビのニュースを賑わしても横浜ではそのような状況におかれたことはありません。

帷子川親水緑道の入口の階段を下りてすぐ右に湧水があります。こんこんと湧き上がっていますが、残念ながら、地下水をポンプアップした人口の湧水です。孔口付近には茶褐色の沈殿物（褐鉄鉱）が付着しています。水質を測定してみたところ、どうやら先の鶴ケ峰地区連合町内会館前の井戸とは水質が異なり、基盤の上総層群から汲み上げられた地下水のようです。

●帷子川分水路

帷子川沿いに下ると、遊水池と帷子川分水路への水門に到達します。帷子川の抜本的な治水対策のために建設されたのがこの全長7.5kmの帷子川分水路です。着工から16の年月を経て、平成9年3月に竣工しました。度々の豪雨の際に、この分水路が大いに機能しています。

この分水路は長さ5.3kmのトンネル（高さ9.0m、幅11.2mで新幹線のトンネルより大きな断面）で横浜国大、三ツ沢公園の下を通り抜け、横浜駅北方の鶴屋町を経て東京湾に繋がります。